

第2学年 道徳科学習指導案

1 主題名 ことばの力

2 教材名 「あんなになかよしだったのに…」
(作・絵 かさいまり 出版社：ひさかたチャイルド)
B【友情、信頼】(関連する内容項目 B【礼儀】)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値や指導内容について

本主題で中心となる道徳的価値は、学習指導要領のB－(9)友情、信頼「友達と仲よくし、助け合うこと」である。中学年の「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」高学年の「友達と互いに信頼し、学びあって通常を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」へと発展するものである。友達関係は、最も重要な人間関係の一つであり、児童が学校生活を楽しくすごすことができるかどうか方向付けられることもある。より良い人間関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力することが信頼感や友情を育んでいくために大切である。

そこで本主題では、いつも仲良しだか友達を傷つけてしまった主人公の行動のどこがいけなかったかを考えることで、相手の気持ちを考えて接し、友達に寄り添っていくことの大切さに気付かせていきたい。

(2) 児童の実態

※個人情報保護の観点から削除

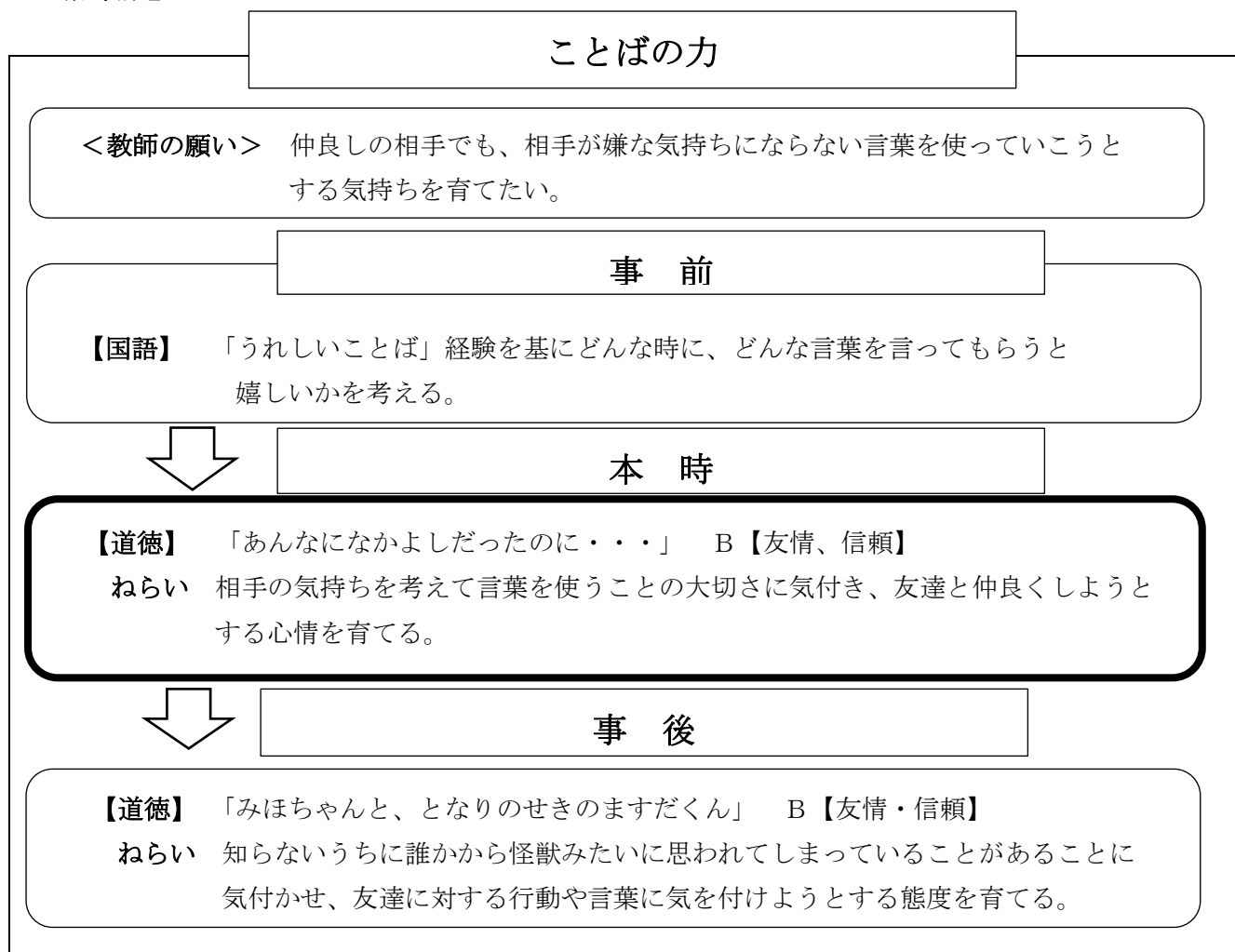
(3) 教材について

使用する教材の特徴(教材観)

本教材は、日頃、何気なく使っている言葉の大切さについて扱ったものである。仲良しのこぐま、だいとちい。ある日、一緒に木登りしていた時のこと。「あはは、よわむしだな。」ふとだいが言った一言が、ちいの心を傷つけました。いつしかだいとあそばなくなるちい。だいはふざけて言った自分の言葉の重さに気が付くという内容である。

ちいがだいと遊ばないのはなぜか。ちいの気持ちは児童にとっても共感できるものであり、身近な問題として考えやすい。また、だいの「うれしいことも、たのしいことも、みーんなぼくのことばがこわしちゃった」の言葉の意味についても考えていく。だいがちいに謝ろうと思ったのはどうしてかを考えることで、相手の気持ちを考えて話すことの大切さに気付くことができるようにしたい。くまのだいとちいの二匹のこぐまの気持ちを考えていくために心情円を用いて二人の気持ちの違いにも気付けたい。また、役割演技を取り入れ、くまのだいが、ちいと仲直りするためにとった行動や言葉について考え、友達とずっと仲良くしていくためには、どんなことに気を付けて行くことが大切かに気付かせていきたい。

4 指導構想



5 本時の指導

(1) ねらい

相手の気持ちを考えて言葉を使うことの大切さに気づき、友達と仲良くしようとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動と発問 (◎：主発問)	ねらいにせまる手立て	予想される子供の反応 (・)
導入 ③	1 友達について考える。 ○友達がいて良かったと思うときはありますか。	○友達がいて良かったと思うことを考え、発表する。日頃、友達と楽しく過ごしていることを思い出し、友達の良さを確認する。	・一緒に遊ぶと楽しい。 ・係の仕事を手伝ってくれた。 ・遊びに入れてくれた。 ・困っているときに、助けてくれた。
展開 ②⑦	2 教材「あんなになかよしだったのに・・・」(前半)を視聴し、話	○場面絵や心情円を活用することで、くまのだいとちいの気持ちの変化や違いを理解できるようにする。	・だいは、ちいに嫌な言葉を言っている。 ・ちいは、だいのこと嫌

し合う。 ○だいの心の色が変わったのは、なぜですか。 ◎「やっぱり、もうあそばない。」と言われただいは、ちいに何というでしょう。	3 教材「あんなになかよしだったのに・・・」(後半)を視聴し、二人の心の色について考える。 ○二人の心の色がずっといっしょでいるためにはどうしたら良いでしょう。 4 本時の学習を振り返る。 ○アンケートの言われて嬉しい言葉を見てください。	○それまで一緒に遊んでいた仲良しのちいの気持ちを傷つけるようなことを言ったことを心情円で確認する。 ○ワークシートに記述後、二匹の会話を役割演技で演じる。5つの約束を確認すると共に、演技をする人の顔の表情や言葉の伝え方などをよく見ておくように声掛けする。 ○2 回行う。演技について観衆や、演者から発言の理由を聞き、ねらいに迫る多面的な意見が出るようにしていく。2回目により良い演技を行い、なぜ、謝るのか、その理由についても考えることができるようにする。 ○視聴し、二人が仲直りできて良かったという気持ちを持つことができるようにする。二人の心情の変化についても考える。 ○ワークシートに記述することで友達と仲良く過ごすために必要なことは何かをこれまでの学びを基に自分事として、考えることができるようにする。 ○友達の嬉しい言葉を言われた時の話を聞くことにより、友達に対して自分もそうありたいという思いを持つことができるようにする。	いになったと思う。 ・ちいが、かわいそう。 ・ちいは、悲しくなったと思う。 ・悪いなと思った。 ・謝りたい。 ・だいは、なんと言うだろう。 ・私なら、こう言うな。 ・ちいに謝ろう。 ・ごめんね。もう、あんなこと言わないよ。 ・嫌な思いをさせたね。 ・傷つけちゃった。 ・ちいと仲直りできて良かった。 ・だいが謝ることができて良かった。 ・お互いを大事に思う。 ・相手の気持ちを考えて、話すこと接することが大事。 ・相手が喜ぶ、嬉しい言葉を使おう。 ・友達には、悪いことをしたら謝ろう。
---	---	---	--

6 本時の評価

○友達と仲良く過ごすには、相手の気持ちを考えて接することや、心のこもった言葉を使うことの大切さについて考えることができたか。

(学習活動2・3の発言、ワークシートから)



あんなになかよしだったのに…

名まえ()

「やっぱり、もうあそばない。」と言われ、だいは、このあと ちいに
なんというでしょう。



ちい、ごめんね・・・



二人の心のいろがずっといっしょでいるためには、
どうしたらよいでしょうか。

.....

.....

.....

.....

今日の学しゅうをとおして	ふりかえり
①どうしたらよいか、考えましたか。	◎・○・△
②じぶんの考えを友だちに話すこと、聞くことができましたか。	◎・○・△
③友だちのいけんの中からよい考えを見つけることができましたか。	◎・○・△
④これからどうするか 考えることができましたか。	◎・○・△